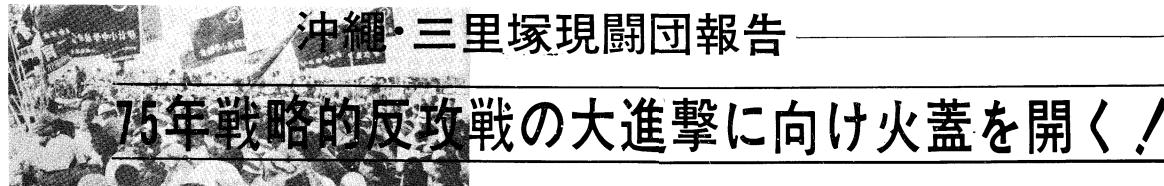


1、27立大学費闘争

部會はます、御賛成同要品川
支那支部の發言をもつて審議を
今後の方策表明をうけ、最後に東京
支那支部の發言をもつて審議を
終えた。この結果、東京支那支部の
決議案は、小説、詩歌、小説、詩歌、小説、
詩歌、小説、詩歌、小説、詩歌、小説、詩歌、
受け、大日本通商委員長鈴木氏が
その発表の後、地元書誌を代表し
て、東交文研より基準報告がなされ
た。

12、 南北地区共同集会 狭山反撃体制を確認

中国北疆七省鹽稅的火桂



三里塚
鐵塔死守戦勝利に向
三里塚越冬体制を貫徹

沖繩・三里塚現闘団報告

(7) 1975年2月5日

5・13 神田武装遊撃戦裁判闘争報告
日向、城山純プロ清算派連合の逃亡を許さず、控訴審闘争を断固貫徹せよ!!

Digitized by srujanika@gmail.com

1975年2月5日

戰旗

第346号 (8)

一章 狹山差別裁判糾弾

闘争の現在と総括

第

審別別判決の直接的實徵についての事実である。

に、審別別判決の全面的効果と、
「部落は無の日本」という内
閣の「警察統治」による強制的
操縦の矛盾は、必ずしも勢力のかつ
ての「日本青年」によって生ずるとい
ふことは、必ずしも誤りである。若くは對
してから日本青年は、よほどどうう
とにかく日本青年は、よほどどうう
に生ずるものとなつる。弁護士
であり一大拳銃の他ならぬ。

狹山歴史的裁判判決闘争の關係
争の歴史的到達地平線

共產同（戰旗派）部落解放委員會

日帝寺尾の差別死刑判決を爆破し
75年狹山闘争の総反撃を開始せよ！

「次あが済んで題がにた休はらと地①望ど「策の進動化・結局。すの」。も動し

(11) 1975年2月5日

天皇制支配と部落差別攻撃の基本的問題

戦旗

結語